

英語学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
英語学特論Ⅰ	統語論と意味論における諸問題の研究Ⅰ	2	島 越郎	1学期	木	2	1
英語学特論Ⅱ	統語論と意味論における諸問題の研究Ⅱ	2	島 越郎	2学期	木	2	2
英語学特論Ⅲ	統辞構造の外在化	2	土橋 善仁	集中(1学期)			3
英語学研究演習Ⅰ	英語学の諸問題研究Ⅰ	2	島 越郎. 金子 義明	1学期	水	2	4
英語学研究演習Ⅱ	英語学の諸問題研究Ⅱ	2	島 越郎. 金子 義明	2学期	水	2	5
英語解析学特論Ⅰ	統語論・音韻論インターフェイス研究	2	金子 義明	1学期	火	5	6
英語解析学特論Ⅱ	統語論・意味論インターフェイス研究	2	金子 義明	2学期	火	5	7
課題研究 (英語学)		4	金子 義明. 島 越郎	通年	月	1	

科目名：英語学特論 I / English Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LM14204, **科目ナンバリング：**LHS-LIN601J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

統語論と意味論における諸問題の研究 I

2. Course Title (授業題目)：

Topics in Syntax and Semantics I

3. 授業の目的と概要：

生成文法における統語論や意味論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。

今年度は、Alexiadou, Anagnostopoulou, and Schafer (2015) *External Arguments in Transitivity Alternations* (Oxford University Press) を精読する。

4. 学習の到達目標：

統語論と意味論における最新動向を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：使役交替現象に関する基本的分析について

第3回：反使役動詞と動作主

第4回：使役化とイベント構造

第5回：使役化と外項

第6回：二種類の使役化

第7回：根とイベント構造

第8回：反使役動詞の3つのタイプ

第9回：反使役化の再帰化分析

第10回：反使役化と形態素

第11回：英語とイタリア語にみられる使役交替現象の違い

第12回：英語とフランス語にみられる使役交替現象の違い

第13回：英語とギリシャ語にみられる使役交替現象の違い

第14回：英語とドイツ語にみられる使役交替現象の違い

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]

7. 教科書および参考書：

Alexiadou, Anagnostopoulou, and Schafer (2015) *External Arguments in Transitivity Alternations* (Oxford University Press)

8. 授業時間外学習：

担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかりと予習し、不明な点を整理しておくこと。

9. その他：

生成文法に関する基礎的知識を前提とする。

科目名：英語学特論Ⅱ／ English Linguistics(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LM24204, **科目ナンバリング：**LHS-LIN602J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

統語論と意味論における諸問題の研究 II

2. Course Title (授業題目)：

Topics in Syntax and Semantics II

3. 授業の目的と概要：

生成文法における統語論や意味論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。

今年度は、Alexiadou, Anagnostopoulou, and Schafer (2015) External Arguments in Transitivity Alternations (Oxford University Press) を精読する。

4. 学習の到達目標：

統語論と意味論における主要な問題に取り組み、その解決案を提示できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：反使役動詞とヴォイス

第3回：ゲルマン諸語とロマンス諸語にみられる特異な反使役動詞

第4回：二種類のヴォイス

第5回：ヴォイスとイベント

第6回：ヴォイスと動詞の意味クラス

第7回：ヴォイスと受け身文

第8回：英語とギリシャ語に見られる受け身文の違い

第9回：英語とドイツ語に見られる受け身文の違い

第10回：受け身文の制限

第11回：受け身文と中間文

第12回：名詞句における受け身

第13回：ヴォイスと形容詞的受け身文

第14回：二種類の形容詞的受け身文

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]

7. 教科書および参考書：

Alexiadou, Anagnostopoulou, and Schafer (2015) External Arguments in Transitivity Alternations (Oxford University Press)

8. 授業時間外学習：

担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。

9. その他：

生成文法に関する基礎的知識を前提とする。

科目名：英語学特論Ⅲ／ English Linguistics(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1学期）， **単位数：**2

担当教員：土橋 善仁（非常勤講師）

講義コード：LM98806， **科目ナンバリング：**LHS-LIN603J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

統辞構造の外在化

2. Course Title（授業題目）：

Externalization of Syntactic Structures

3. 授業の目的と概要：

本講義では、特に韻律的現象の領域の決定メカニズムに着目し、外在化プロセスの理論の近年の発展を学び、この分野の現在の諸課題を理解することを目的とする。

4. 学習の到達目標：

受講生が、この授業を通して統辞・音韻インターフェイスにおける諸課題を理解し、マッチ理論やフェイズ理論などの主要な理論のもと基本的な韻律現象を分析できるようになることが到達目標である。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 統辞構造の外在化をめぐる諸問題の概観
2. 韻律現象と階層性
3. 「標準理論」(1)：統辞構造関係と韻律領域
4. 「標準理論」(2)：句構造の端と韻律領域
5. 最適性理論と韻律領域
6. 機能範疇と韻律領域
7. 句構造のラベルと韻律領域
8. フェイズ理論と音韻句形成
9. フェイズ理論と韻律階層
10. マッチ理論
11. 情報構造と韻律領域
12. 統辞現象と韻律現象
13. 統辞対象物の音韻的解釈
14. 派生の終了と韻律領域
15. まとめと今後の課題

6. 成績評価方法：

出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

使用するテキストはプリントで配布する。参考書は必要に応じて適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

9. その他：

質問は随時受け付ける。（特に授業終了後）

科目名：英語学研究演習 I / English Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：島 越郎, 金子 義明 (教授)

講義コード：LM13203, **科目ナンバリング：**LHS-LIN604J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語学の諸問題研究 I

2. Course Title (授業題目)：

Current Topics in English Linguistics (Advanced Seminar) I

3. 授業の目的と概要：

英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の 3 部から構成される。

①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

②討論者がコメントを加える。

③授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. 学習の到達目標：

①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：導入

第 2 回：省略現象に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 3 回：極性表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 4 回：名詞表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 5 回：数量詞に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 6 回：名詞句内の省略に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 7 回：受け身に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 8 回：Tough 構文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 9 回：島の制約に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 10 回：空項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 11 回：イベント項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 12 回：ラベル付けに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 13 回：省略と移動に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 14 回：項構造に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 15 回：まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート

7. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

9. その他：

科目名：英語学研究演習Ⅱ／ English Linguistics(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：島 越郎, 金子 義明 (教授)

講義コード：LM23204, **科目ナンバリング：**LHS-LIN605J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語学の諸問題研究 Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Current Topics in English Linguistics (Advanced Seminar) Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

②討論者がコメントを加える。

③授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. 学習の到達目標：

①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：アスペクトに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第3回：移動と束縛に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第4回：動詞句構造に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第5回：二重目的語構文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第6回：例外的格付与構文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第7回：知覚動詞に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第8回：中間動詞に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第9回：右方向移動に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第10回：コントロール現象に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第11回：擬似分裂文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第12回：否定繰り上げに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第13回：空項とヴォイスに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第14回：数量詞の解釈に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート

7. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

9. その他：

科目名：英語解析学特論 I / Analytical Study of English(Advanced Lecture)I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LM12501, **科目ナンバリング：**LHS-LIN606J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

統語論・音韻論インターフェイス研究

2. Course Title (授業題目)：

Syntax-Phonology Interface

3. 授業の目的と概要：

生成文法理論による統語論・音韻論のインターフェイス (いわゆる外在化) に関わる具体的研究を取りあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。

4. 学習の到達目標：

生成文法理論による外在化インターフェイス研究の動向を把握し、今後の研究に活用する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、講義、学生の発表、ディスカッションにより構成される。内容およびスケジュールは以下の通りである。

- 1 ガイダンス
- 2 Affix Support and the EPP
- 3 Match Theory and Contiguity (1): Match Theory
- 4 Match Theory and Contiguity (2): Contiguity- Adjunction
- 5 Probe-Goal Contiguity (1): English, French, Irish, and Danish
- 6 Probe-Goal Contiguity (2): Affix Support and Contiguity
- 7 Selectional Contiguity (1): Generalizing Contiguity
- 8 Selectional Contiguity (2): The Final-over-Final Constraint
- 9 Selectional Contiguity (3): Ergativity and Verb-Periphery
- 10 Head Movement (1): Bjorkman's (2011) Approach to the Syntax of Auxiliaries
- 11 Head Movement (2): Verb-Initial Languages
- 12 Further Topics in Head Movement (1): Movement to C
- 13 Further Topics in Head Movement (2): Movement to v
- 14 Further Topics in Head Movement (3): Infinitives
- 15 まとめとディスカッション

6. 成績評価方法：

授業における発表 (30%) と期末レポート (70%)

7. 教科書および参考書：

テキスト：Norvin Richards (2016) Contiguity Theory, MIT Press.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編)『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

8. 授業時間外学習：

十分な予習を行うこと (2 時間)。授業後は論点を整理し、自分の研究テーマとの関連性に留意した学習を行うこと (2 時間)。

9. その他：

取り上げる具体的内容は、緊急性の高い重要な研究の発表等があった場合、変更の可能性はある。

科目名：英語解析学特論Ⅱ／ Analytical Study of English(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LM22501, **科目ナンバリング：**LHS-LIN607J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

統語論・意味論インターフェイス研究

2. Course Title (授業題目)：

Syntax-Semantics Interface

3. 授業の目的と概要：

生成文法理論による統語論・意味論（及び語用論）のインターフェイスに関わる具体的研究を取りあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。

4. 学習の到達目標：

生成文法理論による統語論・意味論インターフェイス研究の動向を把握し、今後の研究に活用する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、講義、学生の発表、ディスカッションにより構成される。内容およびスケジュールは以下の通りである。

- 1 ガイダンス
- 2 What do we study when we study mood?
- 3 Main findings about the nature of mood
- 4 Background on modality
- 5 The flow of information in discourse
- 6 Subsentential modality
- 7 Indicative and subjunctive
- 8 Beyond verbal core mood
- 9 Sentence mood, clause type, and sentential force
- 10 Sentential mood in speech act theory
- 11 Sentence mood in the dynamic approach
- 12 Theories of clause type systems and sentence mood
- 13 Prospects for a unified theory of core mood
- 14 Reality status and evidentiality
- 15 まとめとディスカッション

6. 成績評価方法：

授業における発表(30%)と期末レポート(70%)

7. 教科書および参考書：

テキスト：Paul Portner (2018) Mood, Oxford University Press.

参考書：郡司隆男・白井賢一郎・松本祐二・阿部泰明・坂原茂『岩波講座 言語の科学4 意味』岩波書店

8. 授業時間外学習：

十分な予習を行うこと(2時間)。授業後は論点を整理し、自分の研究テーマとの関連性に留意した学習を行うこと(2時間)。

9. その他：

取り上げる具体的内容は、緊急性の高い重要な文献の発表等があった場合、変更の可能性はある。